

令和元年度

事業報告書

秋田しらかみ看護学院

2020年2月

建学の精神

本学院は、
畏敬の念に立ち、「看護専門職として人道を実践する人間」、
すなわち、「医療施設看護にあわせ、特に、時代の要請である在宅看護の担い手として地域
社会に仕えると共に、国際的・地球的連帯意識をもって人類に仕える看護職」を育成する。
その目的実現のため下記の達成を期する。

1. 自己教育力の養成、問題解決力の育成

教えられるのを待つのではなく、自ら主体的に問い、考え、自らを拓く姿勢、“学
習力”を培う。

直面する諸困難を、“問い”すなわち自らの成長をうながす課題としてとらえ、そ
の現実の中に対処・解決法を模索し、創造発展的に対応・行動するちからを養う。

2. 共創・共生的姿勢の育成と人間関係形成力の育成

人間の“協力”を、学習その他の活動における単なる共同作業という理解にとど
めず、他者の存在を自己への問いかけとし、患者こそ自らを真の看護職たらしめる
教師としてうけとめ、他者の痛み・苦しみを自分のものとして共感し、謙遜と感謝
の想いをもって共に生きる姿勢をはぐくむ。

3. “畏敬の念”に基づく、生命観・人間観の育成

生を“天からの所与”、あらゆる生命をその時空における“他にかけがえのない存
在”としてうけとめ、生命と人格の尊厳を護る姿勢を育てる。

4. “地球家族”の一員としての自覚と責任感の育成

人間を地球環境・宇宙生命体に連なる存在としてとらえ、祈りをもって万有を愛
し、環境を愛護し、世界平和を創り出すことに仕えるところをはぐくむ。

5. 地域創造への主体的参加と奉仕の精神の育成

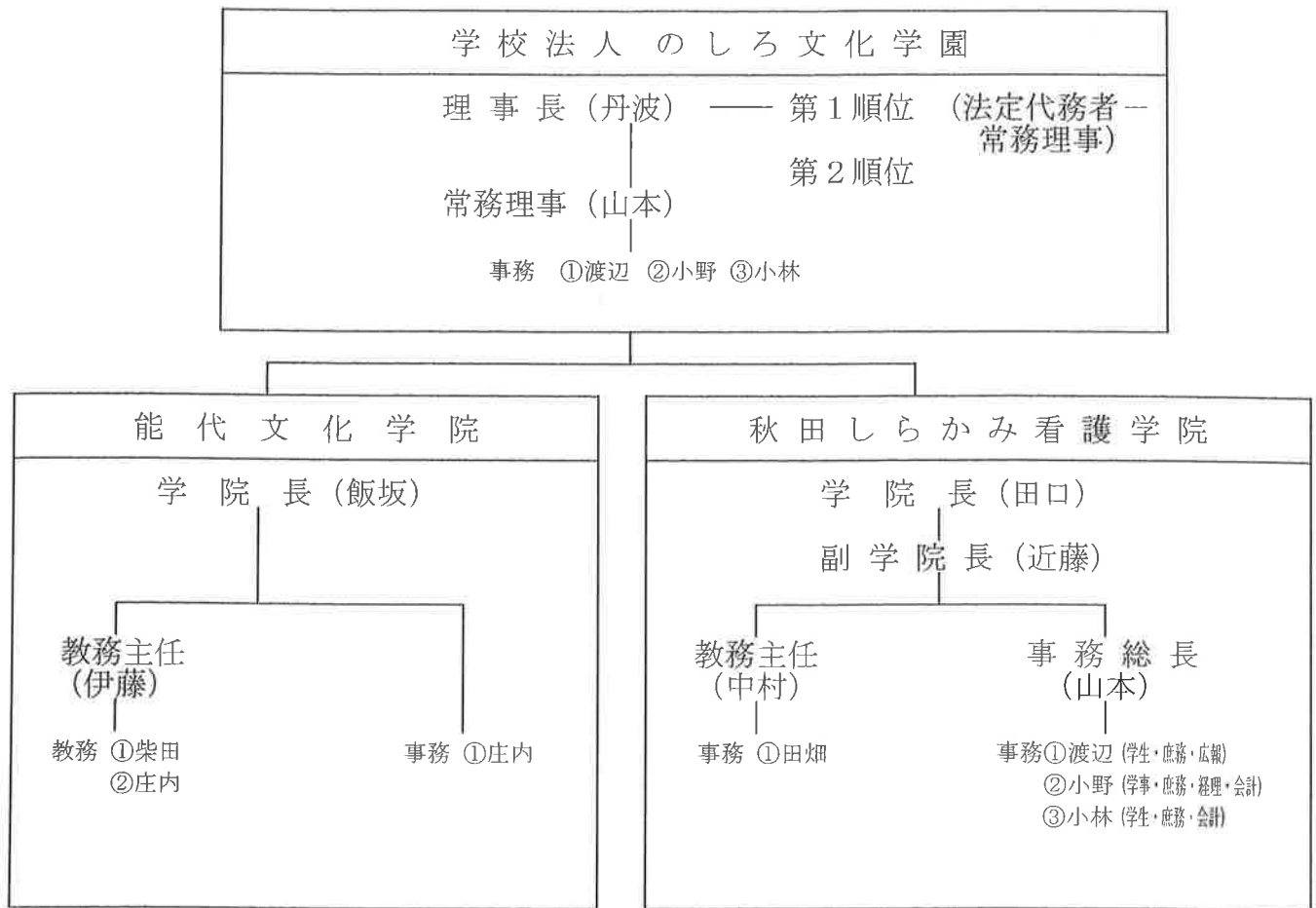
自らが地域社会の担い手、また主体であるとの自覚に立ち、地域住民の健康増進
に寄与することのみならず、地域共同体の創造、“ふるさと創生”に積極的に参加、
貢献するところを育てる。

1998年 4月15日

初代学院長 丹波 望

のしろ文化学園役員および学校組織図

2020年 4月 1日



教 務 (介護員養成教室) 伊 藤 千 賀 子
 (情報技術教室) 柴 田 珠 恵

教 務 中 村 陽 子
 柴 田 守
 佐 藤 雅 子
 杉 本 史
 田 中 多 喜 子
 加 藤 夏 生
 山 平 良 子
 鍋 谷 久 美 子
 (教務助手) 宮 腰 美 穂 子
 司 書 秋 林 紋 子

修業年限及び卒業時に必要な修得単位数

修業年限は3年間。卒業時に必要な修得単位数 99単位 3000時間 とする

卒業時に得られる資格

所定の過程を修了したものに対し、専門士（医療専門課程）の称号が授与されることを学生
便覧、学校案内に記載している。

アドミッションポリシー

1. 本学への入学を強く志し、将来、看護職として働きたいという明確な目標をもっている人
2. 人に関心をもち、人と向き合える人。人の痛みを理解し相手を尊重することができる人。
3. さまざまな価値観を受け入れ、人と関わるための努力ができる人。
4. 協調性があり誠実に行動できる人。
5. 主体的に学んでいこうとする意欲と姿勢、創造力を持ち努力していける人。
6. さまざまな活動に積極的に参加し、人と交流する機会を得てきた人。
7. 看護を学ぶ上で必要な学力がある人。

カリキュラムポリシー

1. 専門職者としての様々な状況で活用するための基礎的知識を学ぶ「専門基礎分野」を配置するまた、専門知識及び技術を修得するための「専門分野」を1年次から系統的に学べるように配置する。
2. 基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ及びⅡで学習したことを、臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合分野として段階的・漸進的な積み上げがたのカリキュラムデザインとする。
3. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として、幅広く理解する能力を養うことができるカリキュラム構成とし各領域を配置する。
4. 「講義」「演習」「実習」など多彩な授業方法を通して、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上を目指すとともに、「向上心」「論理的科学的思考」「問題解決能力」「創造性」を育むカリキュラムとする。

単位認定、進級及び卒業・修了認定等

学則 第5章 履修、卒業の認定において、第18条（出席数）第19条（履修）第20条（学習の評価及び単位）により、決定した。
また第21条は卒業について、第22条では（専門士の称号）とあげている。

2019年度 秋田しらかみ看護学院 行事实績

1. 実績

令和2年 3月31日現在

月	日	行 事
4	7	入学式
	9	臨地実習開始（3年生）～10/28
	15	学院創立記念日
	26	体育祭
5	7	国家試験対策特別講義（各学年）～3/15 ※随時
6	14	基礎看護学実習Ⅰ―①（1年生）
	18	文化講演会（講師：塚本真木夫）
	21	戴帽式（21期生）
7	1	防災訓練
	26	オープンキャンパス
9	24	前期科目修得試験～25日
10	4	学院祭～5日 ※オープンキャンパス同時開催
	29	成人・老年看護学実習（2年生）～11/14
11	9	推薦入学試験
	15	推薦入学試験合格発表
	19	成人・老年看護学実習（2年生）～12/5
12	9	基礎看護学実習Ⅰ―②（1年生）～13日
	17	ケースレポート発表会 ～18日
1	11	一般入学試験（第一次募集）
	17	一般入学試験合格発表（第一次募集）
2	4	基礎看護学実習（1年生）～21日
	5	准看護師試験
	8	一般入学試験（第二次募集）
	14	一般入学試験合格発表（第二次募集）
	16	第109回看護師国家試験
3	1	後期科目修得試験～8日
	5	卒業式
	7	一般入学試験（第三次募集）
	10	准看護師試験合格発表
	13	一般入学試験合格発表（第三次募集）
	19	第109回看護師国家試験合格発表

秋田しらかみ看護学院

秋田しらかみ看護学院

1. 学生に対する教育体制と内容

3年生は38名で始業、35名が卒業。【退学1名、留年2名】

2年生は43名で始業、41名が進級。【留年2名】

1年生は39名で始業、36名が進級。【退学2名、休学（留年）1名】

退学・休学の理由は「成績不振」「体調不良」である。

教育内容は成績会の学生に対し、担任が中心となり、しっかり学ぶことを指導した。また課題としては、再実習を受けなければならない学生に対しての指導である。

2. 学生に対して安全な教育環境の提供と充実

○ 特別講演

学院の理事を講師として招き「失敗をおそれず、常にプラス発想で」の演題のもと「文化講演」を行った。学生が講演に対して感情移入し、泣く場面もあり「患者に寄り添う」大切さを学んだ。

○ 特別支援

コミュニケーションを苦手とする学生に対し、福祉施設での実習を行い効果を得た。

○ ボランティア活動及び地域活動

学生は積極的に活動に取り組んだ。特に今年度は能代市消防署から「学生機能別消防団」の結成依頼があり、「秋田しらかみ看護学院消防団」を結成することになった。入団員数は1年生16名、2年生8名、合計24名が入団した。5月27日に能代市役所において入団式を行った。

○ 新型コロナウイルス対策

2月から感染対策委員会が中心となり、学院指針に沿い、教職員一丸となり、マスク及び手指消毒液を確保、緊急会議（運営会議）において迅速に行動を決定し実施した。

3. 入学者の確保

① 入試委員会を中心に県内外の高校訪問と進学説明会に参加、学院を積極的にPRした。

② 学院案内を新たに編集し直し、わかりやすい内容とした。

- ③ オープンキャンパスは、7月26日及び10月5日に実施、参加総数は95名（保護者37名を含む）であった。参加者のアンケート結果によると、在校生との交流に対し好評価を得た。
- ④ 11月19日、能代市文化会館において、秋田県山本地域振興局総合企画部地域企画課主催の「中学生ふるさと企業紹介事業」において地元中学生に対して看護職について説明をした。

4. 国家試験対策

- ① 1年次から段階的に学習強化を図り、実績に繋がる対策を進めた。
- ② 国家試験に合格率は94.2%であった。

5. 就職対策

学内就職説明会を1月24日に、県内の医療施設8病院を招き、1・2年生を対象に実施した。

就職率は100%（県外2名）、1名は助産師課程に進学した。

6. 教職員は自己研鑽して、学習を積みキャリア形成をする。

- ① 2022年カリキュラム変更に関して教員が研修受講、カリキュラム委員会で検討を始めた。
- ② FD（ファカルティデベロップメント：教授資質開発）委員会での研修は教員が講義し、全教員が受講した。
- ③ 事務長より「働き方改革の骨子」に伴い、業務の効率化調整を行った。

7. 高等教育無償化について

次年度の申請に向け準備を進めている。その一環として「学校関係者評価委員会」を組織化し発足した。12月23日に第1回学校関係者評価委員会を開催し、法人監事1名、法人評議員4名、合計5名を評価委員として任命した。1月27日には評価委員による授業参観及び学校見学を実施した。

8. その他

- ① 本学院において、看護教員1名の教育実習を行った。
- ② 本学院における他校からの編入について、編入後の在籍期間の考え方を統一した。
1年次への編入：6年間、2年次への編入5年間、3年次への編入：4年間とした。
- ③ 卒業式は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、卒業生と教職員のみで実施した。謝恩会は中止。消毒液の確認や学生に対しての手洗いやマスクの着用を徹底した。再実習については、2年生3名、1年生2名ともに学内実習とした。

2019年度 秋田しらかみ看護学院教員役割

教務主任① オープンキャンパス ②式典 ③ボランティア等
教務主任補佐・感染対策委員長
①予防接種管理②秋田しらかみ看護学院 学生消防団③学生相談等
教務主任補佐
①実習調整 ②自己点検・自己評価 ③カリキュラム改訂のための取り組み等
国家試験対策委員長
1、2、3年次担任
実習調整、カリキュラム委員会 自己点検自己評価委員会健康管理、学院祭、自治会、 体育祭、実習室物品管等

学院評価委員会の役割と設置

役割：学院外の有識者で構成され、学院の評価を客観的に評価し、改善に繋げ、教育の向上に努める。

下記5名の委員から構成する。

1 委員長：教育学識経験者

2 副委員長：学識経験者、住職

3 委員：教育学識経験者

4 委員：学識経験者

5 委員：学識経験者

委員長が各委員に対して招集し、評価方法を決め、委員の討議を踏まえ学院評価をする。

学院は評価委員の答申をうけ、改善内容を明確にし、看護教育を向上する。

① 委員会は2回行い、授業参加を行い、次年度の委員会活動を明確にした。

② 評価委員会の答申を公開する。

学内の学生支援組織

1. 奨学金支援
 - 1) 事務が窓口となり随時相談受付、ポスター掲示、入学時の説明をしている
2. 経済支援
 - 1) アルバイトや奨学金の説明と選択
3. 就職支援
 - 1) 学内就職説明、学外就職説明（業者説明・高校説明）、就職試験時の公休取得の促し、病院の紹介等をする。
4. 健康管理
 - 1) 定期健康診断、再検査推進、感染症予防接種奨励
 - 2) 日常生活指導
 - 3) 救急箱の設置、AEDの設置
 - 4) 学内および看護学実習中の不調への早期対応
 - (1) 自宅訪問、処置、保健室観察
 - 5) 学生こころの相談
 - (1) 学内相談室の配置 不定期
5. 原級留置した学生のカリキュラム選択などの学習支援
カリキュラム担当教員を配置し、面接・計画・実施を行っている
6. 寮生活管理と支援
 - 1) 随時生活指導・巡視を行っている
 - 2) 毎年3から4月にかけて寮の補修・清掃
7. 就職支援
 - 1) 就職支援の担当教員を配置。
 - 2) 1・2年生を対象に学内で就職説明会（秋田県の病院）を年1回実施。
 - 3) 求人資料の閲覧室を設置、定期的に求人情報の掲示を実施。
 - 4) 就職試験について、3施設まで公休制度（特別休暇）を許可している。

入学料・授業料

1. 学納金

項目	金額	備考
入学金	300,000円	初年度のみ
授業料	600,000円	分納制度あり（34. 延納分納制度参照）
施設整備費	300,000円	毎年度

2. 預り金

学事経費（テキストおよび参考図書代・実習着等）として、年額300,000円程度を各、学年毎に納入。年度毎に精算し余剰分は次年度に繰り越し、3年次は年度末に残金を返金とする。

延納分納制度について

1) 分納制度について、授業料60万円に限り、前期4月・後期10月に各30万円ずつの分納を

可能とする。

2) 延納について特に制度はない。ただし、期限内での納入が困難な場合は相談に応じている。

キャンパスマップ

1. 住所

〒016-0014 秋田県能代市落合字下悪土120

2. 主な交通手段

奥羽本線「東能代駅」乗り換え、五能線「能代駅」下車、車で5分。「東能代駅」下車、車で15分。

